公益財団法人SGH財団 **第17回市民公開講座**

がんとともに生きる

～患者に寄り添う医療とは？～

病気にはならないこと（予防）が第一ですが、病気になってしまったら、つまり患者になってしまったら
「治ること」が痛切に求められます。なるべく苦痛少なく、短期間に、後遺症なく治りたい。
この患者さんの願いのすべてに応えることが、即ち患者に寄り添う医療です。

日 時

平成31年
2月24日（日）
開場12:30 / 開演13:00（15:40終了予定）

会 場

グランフロント大阪 北館 B2F
ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンターホール

主催：公益財団法人SGH財団
後援：公益財団法人日本対がん協会
協力：SGホールディングスグループ

スケジュール

12:30　開場

13:00　開演

主催者挨拶

公益財団法人SGH財団理事長
SG ホールディングス株式会社代表取締役会長
佐川急便株式会社会長　栗和田 榮一

講演 1

「人はがんとどう向き合うか？」

国立がんセンター名誉総長
公益財団法人日本対がん協会会長
公益財団法人SGH財団顧問　垣添　忠生

講演 2

「がんとともに歩む人を支えて～マギーズ東京の試み～」

認定 NPO 法人マギーズ東京
共同代表理事
マギーズ東京センター長　秋山　正子

挨拶

公益財団法人SGH財団理事
日本赤十字社和歌山医療センター院長　平岡　真寛

15:40　閉演

コーディネーター　平岡　真寛
司会　植月　百枝

（敬称略）

講演1「人はがんとどう向き合うか?」

国立がんセンター名誉総長
公益財団法人日本対がん協会会長
公益財団法人SGH財団顧問

垣添 忠生

先ず、「がんとはどういう病気か」をお話しする。がんは遺伝子の異常によって発生する細胞の病気で、その原因としてはタバコ、食事、感染症が75%を占める。こうした原因により、遺伝子の異常が多段階に蓄積し、永い時間がかかって正常細胞ががん化し、さらにがん細胞が浸潤、転移を起こし、最終的には人の死を招きうる。がんは私たちの生活習慣が関わる慢性病である。

次に、がんと人との組み合わせの多様性を具体的な例をあげて御紹介する。がんに向き合うのに強い人もいれば弱い人もいる。医療はその総てを包摂してある、ことをお伝えする。

3番目に、私の妻は甲状腺がん、肺腺がんを経験し、手術で治した。3つ目の僅か4㎜で発見した小細胞肺がんを治すことができずに亡くなった。その1年半にわたった闘病の経緯をお伝えする。その後の私の苦悩と再生についてもお話しする。がん患者の背後に家族、そして遺族がいることを忘れるわけにはいかない。

4番目に、ヒトは10^{27}、10^{-35}メートルの世界に漂う儚い存在であることをお伝えする。何のことだかお分かりにならないだろうが、これは聞いていただくしかない。
お楽しみに。

最後のメッセージは「がんになっても安心して暮らせる社会を創ろう」、「ヒトは希望があれば生きられる」とした。

略　歴

生年月日：1941年4月10日　出生地：大阪

1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿器科文部教官助手。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜間に国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任。2007年4月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞を受賞並びに瑞宝重光章などを受章。

著　書

「発がんからみた膀胱がんの臨床」　（メディカル・ビュー社）
「がんと人間」（共著）　（岩波新書）
「患者さんと家族のためのがんの最新医療」　（岩波書店）
「前立腺がんで死なないために」　（中央公論社）
「妻を看取る日」　（新潮社）
「悲しみの中にいるあなたへの処方箋」　（新潮社）
「がんと人生」　（中央公論新社）
「巡礼日記　亡き妻と歩いた600キロ」　（中央公論新社）　など

講演2「がんとともに歩む人を支えて～マギーズ東京の試み～」

認定NPO法人マギーズ東京
共同代表理事
マギーズ東京センター長

秋山 正子

がん医療の最近の進展は目を見張るものがあり、入院期間の短縮も含めて、医療者との対話にかける時間が少なくなっている。意思決定を次々と迫られるがん患者と家族にとって、誰かに相談したい、それも病院以外の環境でと願うのは、ある種必然ともいえるものである。

1992年からがん患者の家族としての経験をもとに、訪問看護に転向し、新宿区を中心に実践を続けてきた。がん医療の発展に伴い、ある日、治療医から「次に選択できる治療はない、緩和ですね」といった形で、突然在宅医療に繋がり、短い期間で看とりといった事が増えてきていた。もう少し、がんと共に生きる時間の生活の質を上げる意味で、在宅サービスが利用されたらと思うようになったところで2008年に出会ったのが、英国で始まったマギーズセンターの活動である。

マギー・ジェンクスという乳がん経験者が、自分の体験をもとに、病院と家の間にある第2の我が家のような場所、すなわち第3の場所が、がん患者と家族には必要だと1995年に計画し、1996年に第1号がエジンバラに完成して全英に広がっている。

このスタイルは日本にも是非とも必要と思い2008年から活動し始めた。

マギー流の相談支援「予約なし、相談料は無料、どんな時期であっても相談できる、じっくりとその人の話に耳を傾ける、キッチンがあり家庭的な雰囲気で、運営はチャリティで」を踏襲した暮らしの保健室の取り組みを2011年から始めた。

2014年には24歳で乳がんを経験したTV記者の鈴木美穂と出会い、一気に話が前進し2016年10月豊洲にマギーズ東京をオープンすることが出来た。

そこで行われている相談支援の実際を紹介し、がんとともに歩む人を支えるのに、病院以外の場所での相談の場の必要性を痛感している。環境を整え、リラックスできる安全な居場所を提供できることの意義も踏まえて、新しい相談支援の試みを紹介したい。

略　歴

秋田県生まれ　1973年聖路加看護大学卒業　助産師・保健師・看護師
関西にて臨床経験を積み、看護教員としても勤務。2歳上の実姉を41歳で看取る時に、在宅ホスピスを手探りで実践。その経験をもとに1992年から東京都新宿区で訪問看護を開始。2001年に起業しながら、地域での看取りに積極的に取り組む。2010年NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に取り上げられる。2011年高齢化の進む都会の大型団地の中に「暮らしの保健室」を開設。がん相談も含めて、地域の中で、気軽に立ち寄れる相談施設の有効性を実証。2015年看護小規模多機能型居宅介護「坂町ミモザの家」の事業開始。2016年10月江東区豊洲にがん患者と家族のための「マギーズ東京」を開設し、センター長に就任。

受　賞

平成21(2009)年11月　社会貢献支援財団「平成21年度 社会貢献者」表彰
平成24(2012)年　4月　第8回ヘルシー・ソサエティ賞
平成24(2012)年11月　第6回「新しい医療のかたち」賞(医療の質・安全学会)
平成28(2016)年12月　ウーマン・オブ・ザ・イヤー2017 チーム賞

著　書

「つながる・ささえる・つくりだす　在宅現場の地域包括ケア」　2016年(医学書院)
「家で死ぬこと考えたことありますか?」　2012年(保健同人社)
「在宅ケアのはぐくむ力」　2012年(医学書院)
「在宅ケアのつながる力」　2011年(医学書院)
「在宅ケアの不思議な力」　2010年(医学書院)　など

高齢化社会の急速な進展とともにがん罹患者は増え続け、新たにがんと診断される患者数が年間100万人の時代となりました。その中で、がん患者あるいは家族を、精神面・心理面を含めて全人的に支えるがん医療の重要性が増しています。この癒やす、あるいは支える医療を進めるべく、緩和ケア、在宅ケア、患者相談支援など各種の整備を国は推進していますが、なお十分とは言い難いのが現状です。今回の公益財団法人SGH財団第17回市民公開講座では、がん医療の先導者であるお二人のご講演を通じて、私たちはがんの患者・家族にどのように寄り添っていくか、ご一緒に考える機会になることを願っています。

コーディネーター

公益財団法人SGH財団理事
日本赤十字社和歌山医療センター院長

平岡 真寛

学　歴

昭和52(1977)年　3月　京都大学医学部卒業
昭和59(1984)年　3月　京都大学大学院医学研究科博士課程修了

職　歴

昭和59(1984)年　4月　京都大学医学部附属病院放射線科助手
昭和62(1987)年　1月　米国スタンフォード大学放射線腫瘍科客員助教授
平成 元(1989)年　6月　京都大学医学部講師
平成　4(1992)年　1月　京都大学医学部助教授
平成　7(1995)年　6月　京都大学大学院医学研究科教授
平成19(2007)年　4月　京都大学医学部附属病院がんセンター長 併任(～平成21年5月)
平成24(2012)年12月　京都大学産官学連携本部副本部長
平成28(2016)年　4月　日本赤十字社和歌山医療センター院長

司会

フリーアナウンサー　植月 百枝

これまでの市民公開講座

第16回「こんなに進んだ！肺がん治療の最前線」
開催日：平成30年2月18日（日）　会場：ハービスOSAKA ハービスHALL（大阪市）

第15回「こんなに進んだ大腸がん診療 ！」
開催日：平成29年2月26日（日）　会場：ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター（大阪市）

第14回「泌尿器科がん：診断・治療の最前線」
開催日：平成28年2月21日（日）　会場：新大阪イベントホール レ ルミエール（大阪市）

第13回「こんなに進んだ乳がん治療！」
開催日：平成27年3月15日（日）　会場：大阪国際会議場（大阪市）

第12回「輝いて生きる」
開催日：平成26年2月16日（日）　会場：よみうりホール（東京都千代田区）

第11回「がんと人生」
開催日：平成25年3月24日（日）　会場：有楽町朝日ホール（東京都千代田区）

第10回「子宮がんの予防と治療」
開催日：平成24年3月20日（火・祝）　会場：国立京都国際会館（京都市）

第9回「乳がんの治療と診断」
開催日：平成23年3月27日（日）　会場：京都大学 時計台ホール（京都市）

第8回「集学的がん治療」～治療成績向上を目指したチーム医療～
開催日：平成22年3月28日（日）　会場：京都大学 時計台ホール（京都市）　共催：文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン

第7回「がん治療最前線」～大きく変わるがん治療（薬物、放射線、外科治療）～
開催日：平成21年3月22日（日）　会場：東海テレビ テレピアホール（名古屋市）　共催：NPO法人日本臨床腫瘍学会

第6回「府民とともに考える京都のがん医療」
開催日：平成20年2月2日（土）　会場：京都産業会館 シルクホール（京都市）　共催：京都新聞社

第5回「大腸がんの最前線」
開催日：平成19年3月17日（土）　会場：京都市北文化会館（京都市）

第4回「肺がんの最新情報」
開催日：平成18年3月25日（土）　会場：京都産業会館 シルクホール（京都市）

第3回「がんの予防と胃癌治療の最前線」
開催日：平成17年2月26日（土）　会場：京都会館第二ホール（京都市）

第2回「前立腺がんの最新情報」
開催日：平成16年3月20日（土・祝）　会場：国立京都国際会館（京都市）

第1回「乳がんの最新情報」
開催日：平成15年2月1日（土）　会場：京都市北文化会館（京都市）　共催：京都新聞社

= MEMO =

公益財団法人SGH財団概要

設　立　昭和61年2月14日(平成22年11月1日公益財団法人へ移行)

理事長　栗和田 榮一
(SGホールディングス株式会社代表取締役会長／佐川急便株式会社会長)

目　的　国際的で活力ある社会の創造に向け、多面的かつ幅広く社会活動に寄与することを目的として、経済・産業、教育・文化、医療・福祉等の振興・発展を図るための研究及び事業への助成等を行う。

事　業　東南アジア諸国からの外国人留学生に対する支援事業
がん(癌)に関する基礎研究及び応用治療研究に対する助成・褒賞等の支援事業
経済・産業活動を支える運輸・物流に関する支援事業
上記に関する情報資料収集及び出版物の刊行、講演会等による普及・啓発活動　など

所在地　〒600-8009 京都市下京区函谷鉾町79 ヤサカ四条烏丸ビル9階
TEL: 075-255-9310　FAX: 075-255-9311
e-mail: info_cr@ sgh-foundation.or.jp　URL: https://www.sgh-foundation.or.jp

公益財団法人佐川美術館

[開館時間]　午前9時30分～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)
[休 館 日]　月曜日(祝日に当たる場合はその翌日)、年末年始、展示替期間
[入 館 料]　一般1,000円／高大生600円
中学生以下無料（※保護者の同伴が必要)
[所 在 地]　〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川2891
TEL: 077-585-7800　FAX: 077-585-7810

比叡・比良山を望む琵琶湖のほとりに佇む佐川美術館。水庭が建物を取り囲むように大胆に配置され、「水に浮かぶ美術館」と称される館は和の印象を重視し、モノトーンを基調とした南北2棟と水没した地下展示室からなり、水の揺らぎや光と影を演出しています。
日本画家「平山郁夫」・彫刻家「佐藤忠良」・陶芸家「樂吉左衛門」3作家の展示を中心に、ジャンルを問わずバラエティーに富んだ展覧会やイベントを開催しています。